

DRAGO THERME

源泉管理所

↑竜の森・ドラゴテルメ山麓

温泉街

寺院

学校

図書館

町役場

町営病院

飛竜発着場

町営大浴場

住宅地
商店街

町営体育館

レオの家

卸市場

作物倉庫

農業組合

勇者協会詰所

独身寮

鍛冶屋

正門

町には危険な武器・魔法道具などの持ち込みは
原則禁止のため、ここでチェックを行い預かるなどする。

この広い広い世界にはまだまだ沢山の未知の植物が存在する。
わたしは植物学者のサルヴァトーレ・プラントン博士。
未知の植物を求め、老体に鞭をうち今日も野山を駆け巡る…


こないだ湯治がてら温泉で有名な
ドラゴテルメ山麓の調査をして来た。
(なんとこの山麓では幻の蜜壺茸の目撃情報もある！)
蜜壺茸は見つけることができなかったが、
そこそこ比較的まあまあ珍しい植物と出くわしたので、
みなさんにご紹介しようと思う。



町民すら無許可では
入ることができない
「竜の森」。
その森深くの
日の当たらぬ洞窟内。
そこに植生していたのは
俗にいう
エナジードレイン種の
モガキカスラの亜種である。
日の当たらぬ洞窟や岸壁に
這うように蔓を伸ばし、
動物や魔物が通るのを
待ち、このように
パクつとやってしまう。

うわっ!!
何だコレ...!!

この若者は地元勇者協会所属の
好青年レオ・ハットフィールド君である。
お一人ではマズイので...と
付いてきて貰った。
「こんな花見たことないっすよ」と
興味深げに匂いを嗅ごうとして
やられてしまった。
わたしの警告が遅かったらしい。



読者諸氏は不用心かと思われるかも知れないが、匂いを嗅がせると言うのもモガキカズラの花粉のなせる業なのだ。ちなみにこの花粉の誘惑に引っかけやすいのはエネルギーが豊富な若者と言うのも有名な話である。

さてハットフィールド君の腕力であれば、花卉を引きはがすことは可能であるが、そうはさせないところにモガキカズラが生き延びてきた理由がある。



わっしょい!!

ゴッ

花粉の効果である。
ほのかに匂う程度なら
好奇心をそそられる程度だが
頭を丸呑みされた状態で
まともに浴びると
たちまち
モガキカズラの虜に
なってしまうのだ。



ハットフィールド君の
名誉にかけて言わせて
貰うが、
有無を言わせぬ発情と
射精は花粉の効果に
よるものである。
わたしも300年も若ければ
同じようになってしまう。

彼はモガキカズラが
当面生存できるほどの
エネルギーを奪われ
さらに10回ほど射精させられ
解放されたが、
モガキカズラが1年に必要とする
エネルギーは人間にとっては
10分の散歩に必要な程度の
エネルギーなので
命に関わる問題では無い事も
読者諸氏にお伝えしておく。
(命にかかわるものではないため
わざとエネルギーを奪われる
好事家もいる)



